

## 参考事例 「『産業社会と人間』の展開に当たって」

愛知県立岩倉高等学校 全日制総合学科（1学年5学級）

所在地 愛知県岩倉市北島町川田1番地

電話番号 0587-37-4141

### 1 学校の概要

本校は、肥沃な濃尾平野北西部に位置する岩倉市唯一の県立高校である。名古屋市営地下鉄と名鉄の相互乗り入れにより、名古屋市から通学する生徒も増加している。

本校は、昭和46年に岩倉商業高校として発足した。3年後の49年に普通科を併置し、平成10年度までは普通科及び専門学科（商業・情報処理・経理）を有する学校であった。平成11年4月から、この4学科を統合改編し、愛知県内初の総合学科としてスタートした。総合学科は従前の普通科・専門学科をベースにしつつも、施設設備・人の充実を図り、小人数教育等により生徒の進路希望に適切に対応した教育内容を実施し、上級学校への進学や産業界のニーズに応えうる人材の育成を目指している。

### 2 指導目標

総合学科に学ぶすべての生徒は、原則として入学年次に「産業社会と人間」を履修し、この学科で学ぶ基礎的・基本的内容を身に付けることになっている。それは、総合学科は「将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視する」ものであり、「生徒の個性を生かした主体的な学習を通じて、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にする」（総合学科設置の趣旨）学科だからである。その趣旨を受けて、「産業社会と人間」は「自己啓発的な体験学習や討論を通して、学ぶことを楽しみながら学習する」科目として設定されている。

「産業社会と人間」の目標は以下のとおりである。

自己の生き方の探究という観点から、自己啓発的な体験学習や討論などを通して、自己の進路つまり進学を含めて、職業の選択決定に必要な能力・態度、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力を養うとともに、自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度の育成を図る。

現実の産業社会やその中で自己の在り方生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図る。

なお、この科目での学習活動は、総合的な学習の時間のねらいにも合致しており、現在、展開されている学習方法・形態からも、総合的な学習の時間の参考にすべき実践例と考えられる。

### 3 教育課程上の位置付け

「産業社会と人間」は総合学科の入学年次で学ぶことにより、自己の進路の方向性を考えさせる科目である。そのため、第1学年で2単位、水曜日の5・6限に実施している。

なお、総合学科の教育課程は次の科目によって構成されている。

必履修科目（高等学校学習指導要領によりすべての生徒に履修させる科目）

学科の原則履修科目（総合学科の生徒に原則として履修させる科目〔3科目〕）

総合選択科目（生徒が自己の興味・関心、進路等に基づき選択履修する科目）

自由選択科目（学校において必要に応じ開設される科目）

#### 4 学習活動の概要

「産業社会と人間」は、見学、実習、調査研究、意見発表、対話、討論などの多彩な学習方法に基づく生徒の主体的な活動により、自己の在り方生き方についての認識を深め、将来を見つめながら、自ら学び、考え、判断して主体的に進路決定していくことをねらいとしている。これを踏まえ、授業展開の視点を以下のように定めた。

自己理解のための各種検査や学習を取り入れることで、自己の在り方を考えさせる授業の展開

職業理解のため体験や見学、講演等、幅広い学習の展開

進路選択と科目選択を連携させることで、自己の進路実現が見いだせる授業の展開

様々な学習形態による学習を通して、自己表現の方法と人間愛を育てる授業の展開

地域の教育力を活用するとともに、生徒に地域の実情を考えさせる授業の展開

生徒自らが主体的にかかわり、参加してつくり上げることができる授業の展開

これらのことを考え合わせ、2時間連続とする授業を計画した。講義形式の授業形態をできる限り減らし、一斉指導、ホームルームごとの指導及びグループ指導等の多様な学習展開により、個々の生徒が多くの指導者（チームティーチングに基づく指導）や他の生徒から学ぶことができるようにしている。

##### （1）活動内容

講演「高校生に期待すること」（4月）

現代社会が高校生に期待することを理解させ、自らの在り方生き方について考える手がかりを与える。

産業見学（5月）

県内の各企業の施設・設備及びそこで働く人々の仕事内容を見学し、職業の種類とその特徴について学習させる。

卒業生による講話「夢を実現するために」（6月）

上級学校や職場で活躍する卒業生の講話を通して、自己の進路を実現するために必要なことを考えさせる。

学校見学（7月）

県内の大学・専門学校を見学し、自己の在り方生き方について考察させ、将来の職業選択への展望及び卒業後の進路を具体化させる。

選択科目研究（9月）

進路に合わせた科目選択を行う。客観的データの活用、希望系列に分かれてのガイダンス及び選択科目相談の実施により履修科目を具体的に考える。

地域の産業見学（10月）

地域の産業を見学することを通して、体験したことや感じたことを整理し報告する。レポート、発表会用資料の作成及び発表を行う。

講演「地域に生きる」（1月）

地域の商店主（10名）の生き方に触れる。生徒によるグループでの司会進行等の計画や講師への質問事項の検討、ホームルームでの報告会の原稿作成や発表を行う。

講演「高校生に期待すること」(学習内容)

日 時	4月26日(水)5・6限	指導形式	学年一斉
項 目	自己挑戦	指導場所	プレゼンテーションルーム
指導内容	講演～高校生に期待すること～	主担当者	
目 標	(1) 現代の社会がこれからの高校生に期待するものを直接感じ、それに向かって努力できるよう、具体的な目標を考える。 (2) 聞く態度やマナーを集団行動の中で学ばせる。		
資料・準備	教科書, ファイル		

学 習 指 導 過 程		
時 間	学 習 活 動	指導上の留意点等
13:10	1 教室より移動開始 (1) 放送の準備 (2) 整列(2列縦隊) 室長は教科担任に連絡	担当者による放送  点呼:各教科担任 典礼:担当者
13:20	2 本日のオリエンテーション (1) 講演を聴く心構えと本日の学習内容について ア 迅速な集団行動 イ 時間の大切さ ウ 他人への気遣い エ マナー オ 筆記用具等の確認	
13:25	3 講師紹介 拍手で迎える。	教頭による紹介
13:30	4 講演 聴く態度 大切なことは必ずメモを取らせる。 (途中10分間の休憩あり)	
14:30	5 質疑応答 服装・言葉遣いに注意する。	事前に質問を考えさせる。
14:40	6 謝辞 服装・言葉遣いに注意する。	生徒全員を起立させる。 生徒に謝辞をさせる。
14:45	7 講師退場	講師が会場を出るまで拍手を止めないようにする。
14:48	8 次回の予告	翌日までに「感想文」及び「礼状」を提出することを指示する。
評 価	集合態度・聴く力・準備と後片づけの態度・意欲・積極性・「学習ノート」について総合的に評価を行う。	

(2) 年間指導計画

週2単位時間の中での事前指導, 事前調査, 実施, まとめ, 発表・討論という一連の流れをもった展開は, 身近な進路に関するテーマを中心に, 1テーマ当たり4～5週間の取組としている。

「産業社会と人間」での学習は, 決して覚えて終わるものではない。教員の指導・助言が加わるものの, 生徒自身が自らの学習計画を立て, それを自ら実践し, 学習の各段階で学習ノート等による積極的な自己評価と反省を行うことが必要である。この科目の学習の根底には, 主体的に取り組む自己活動の原則があり, その育成も求められている。

平成12年度 「産業社会と人間」年間指導計画表

自己発見	4/12(水) 5限	オリエンテーション
	4/12(水) 6限	自己紹介
自己挑戦	4/19(水) 5限	職業の種類と職業観
	4/19(水) 6限	産業見学事前調査
	4/26(水) 5・6限	講演(60分)及び感想・礼状作成
	5/10(水)終日	産業見学
	5/17(水) 5・6限	産業見学報告書作成
	5/24(水) 5・6限	卒業生による講話, 礼状・感想文
	5/31(水) 5限	職業適性検査(5/11 別時間にて実施済み)の結果分析と進路設計(進学と就職)
	5/31(水) 6限	昨年度科目選択の状況と方法
	6/14(水) 5・6限	進学・就職を考えた科目選択
	6/21(水) 5・6限	学校見学調査
	7/3(月)期末最終	学校見学(終日)
	7/5(水) 5・6限	学校見学発表会準備(学校祭「産社の部屋」作品作り)
	7/12(水) 5・6限	科目選択予備登録, 課題指導
自己実践	9/6(水) 5・6限	進路アンケート(本年度の科目選択の予定) 体験学習発表会準備
	9/13(水) 5・6限	体験学習発表会(10班)
	9/27(水) 5・6限	選択科目調査研究
	10/4(水) 5・6限	選択科目調査研究
自己発展	10/11(水) 5・6限	地域の産業見学事前調査
	10/25(水) 4～6限	地域の産業見学
	11/1(水) 5・6限	地域の産業見学発表会資料作成
	11/15(水) 5・6限	地域の産業見学発表会
	11/22(水) 5・6限	地域の産業見学発表会反省 討論「問題点と課題点及び次年度への提案」(10班)
	12/6(水) 5・6限	職業とライフスタイル
	12/13(水) 5・6限	講演「国際社会に生きる」
自己表現	1/10(水) 5・6限	1/17講演の企画進行計画
	1/17(水) 5・6限	講演「地域経営者に聞く」(講師10名)
	1/24(水) 5・6限	講演の内容・感想について発表(ホームルーム)
	1/31(水) 5・6限	研究報告書作成
	2/7(水) 5・6限	研究報告書発表(ホームルーム)
	2/21(水) 5・6限	研究報告書発表(ホームルーム)
	3/7(水) 5・6限	研究報告書発表(全体)

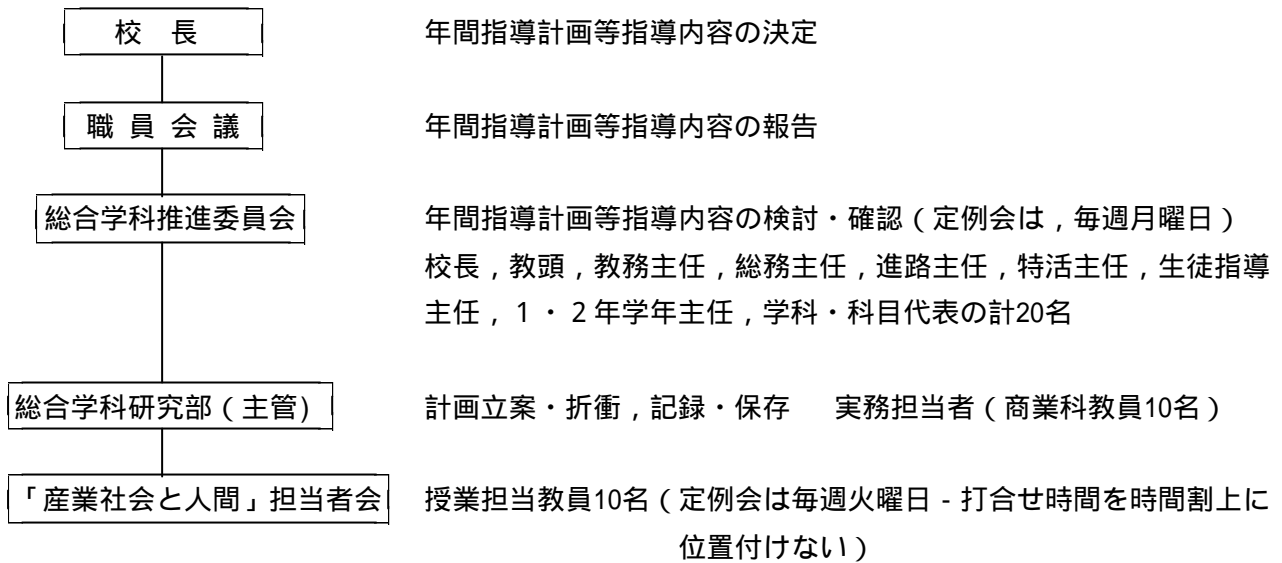
(3) 学習ノート

## 「産業社会と人間」学習ノート

月 日 曜日 限		学習場所		
学籍番号		氏名		
本時のテーマ				
本時の内容				
特に興味関心をもった内容・感想				
	項 目	A	B	C
自	定刻に集合できていましたか？			
己	きちんとあいさつはできましたか？			
評	本時の内容の理解度はどうですか？			
価	態度（服装・言葉遣い・対応態度など）はどうですか？			
	意欲的に活動できましたか？			

### 5 指導組織

見学場所や外部講師との折衝，展開方法等については，平成5・6年度の専門学科6学級同時展開による「課題研究」の指導経験を生かすこととし，立ち上がり当初の科目の担当は，商業科とした。同時に，将来的には特定教科に偏ることなく，どの教科の教員からも横断的・総合的に指導が行われることが望ましいので，平成12年度，校務分掌として新たに「総合学科研究部」を設けた。



## 6 教材等

教科書のない科目であるため，次の承認教材を使用している。

『あすへの進路をひらく 産業社会と人間』（実教出版株式会社発行）

また，学習ノートや発表に要する用紙等の消耗品は学校の物品を利用させている。この他，講演や校外学習が多く計画されているが，交通費等は受益者負担としている。

なお，外部講師の招聘費及び講演料は，年度当初の計画に基づき申請を行うことにより県費ですべて支払っている。

## 7 地域との連携，地域の協力

実施において，下記の2点を指導方針とした。

学校外での授業や外部講師の講演等，幅広い授業展開を行う。

地域の教育力を積極的に活用するとともに，生徒に地域の実情を見つめさせる。

このため，指導計画の作成に当たっては，各種企業，工場，商店，医療・社会福祉施設，官公庁等，地域の実態に応じて可能な限り多くの機関を対象にして生徒の見聞を広めさせ，それらの場における見学や体験学習を行い，また企業や官公庁に勤務する人々や地域の身近な有識者を講師に招くなど，地域の教育力を積極的に活用している。

地域社会に生徒が出向いて学習することに対して，安全指導の面から，これを危惧する声もあった。しかし，主体的な学習と生徒の自立を考え，体験やボランティア活動に臨んだ実践から，むしろ地域社会との結び付きの中で生徒は自己の存在感や職業観を磨き，自己充実を図ることができているようである。また地域の有識者の招聘等は，地域に開かれた学校として役立っている。

## 8 評価・評定

「産業社会と人間」では，個々の生徒の能力や資質が多くの教員や友人の目を通して，多面的に観察・評価される必要がある。生徒一人一人の「将来の生き方」への探求心・関心や「自己実現」への取組姿勢を評価することは難しいが，考査による評価は行わず，提出物と活動への取組に対する意欲・態度を総合して以下のように評価している。

各学期100点満点で、60点平均とし、提出物（90点）と活動への取組に対する意欲・態度（10点）を総合して行い、5段階で評価・評定を行う。提出物についてはA～Cの3段階で評価し、点数化している。

評価の対象となる提出物

- a 学習ノート                      b 作文・感想文（6～7回）                      c 礼状（講演：4回）  
d 発表会用資料（3回）                      e ワークシート（20回程度）                      f 夏季課題など

提出物の評価の目安

1 提出物につき、5点満点または10点満点とし、5点満点の場合、Aは5点、Bは3点、Cは1点を与える。10点満点の場合、Aは10点、Bは5点、Cは1点を与える。

A...学習ノートやレポートがしっかりと書かれている。十分な学習成果がみられる。

B...学習ノートやレポートが提出されており、必要最低限のことが書かれている。平均的な学習成果がみられる。

C...学習ノートやレポートの内容が粗雑であり、学習成果が十分ではない。

提出物に対する評価は、学年全体の共通基準による評価となるように担当で打ち合わせることや、一人の生徒が多くの教員の指導を受け、特定教員の観念に偏らない多面的な評価が受けられるよう配慮をしている。全体的な評定平均は、教務内規に基づいている。

なお、生徒による自己評価は、レポートや意見発表、学習ノート等の中に「反省・感想」などの欄を設けて記入させている。また、学習のまとめの段階では、総括的に記入させたり、他の生徒との意見交換などにより認識を深めさせている。

## 9 成果と課題

生徒は、岩倉高校総合学科に大きな夢と希望を抱いて入学してきている。総合学科では幅広い科目選択、徹底した進路指導、ゆとりある授業、可能性の追求を主眼に、生徒が夢を見つけ計画を立て、実行することを指導・援助している。「産業社会と人間」は生徒の進路決定を指導・援助するために設定された科目であり、ここに盛り込まれている内容は教えてもらうのではなく、将来を見つめながら自分で学び、考え、判断していく内容である。そのため、本校でも、学習内容に応じた多様な弾力的な授業の形態を模索し、教員の意識改革、授業改革を必然的に伴うものになった。また、2年間の実施を経て、比較的スムーズに取り組むことのできる授業システムをつくり上げることができた。第1学年に自己の進路への自覚を深めると同時に、生徒自ら学び判断できる能力を築き上げることで、他の科目の学習においても意欲的に取り組めるよう、一層効果を上げたいと考えている。この「産業社会と人間」で高めた進路意識や職業意識を第2学年以降もいかに継続させ、発展させていくかということが今後の課題である。今後も指導と援助の内容・方法等の改善を行い、生徒一人一人の心に迫る「産業社会と人間」を目指していきたい。